

令和元年度バス事業における評価結果について

評価指標 及び目標値	平成30年度実績 (調査結果)	令和元年度実績 (調査結果)	評価結果・評価基準 からの方向性	備考(見直し策の具 体例)
1便あたりの平均 利用者数 (基本路線9人以上、 乗継支線2人以上)	1便あたり平均利用 者数 基本路線9.1人 乗継支線1.4人	1便あたり平均利用 者数 基本路線8.9人 乗継支線1.6人	○未達成 コロナウイルスの影響から、基本路線の 通学通勤利用者数が 減少した。支線の利 用者数は前年度から 増加している。	しばらくはコロナウ イルスの影響がある と思われるが、引き 続き利用拡大に向け た検討を推進する。
収支率 (基本路線30% 以上)	基本路線収支率 16.9% 但し、無料措置が無 ければ20.7%	基本路線収支率 16.5% 但し、無料措置が無 ければ20.0%	○未達成 乗車数の減少に伴い 収支率も減少してい る。引き続き改善策 を検討	利用者の拡大を図る とともに経費削減に 取り組む。
満足度 (1年目50%以 上、2年目以降 60%以上) 「満足」及び「や や満足」の合計値 の割合をいう。	バス利用者意識調査 結果(平成30年7 月実施)による。 ○運行ダイヤ 57.1% ○バスルート 78.0% ○バス運賃 90.5% ○運転士マナー 88.1%	バス利用者意識調査 結果(令和2年3月 実施)による。 ○運行ダイヤ 48.6% ○バスルート 77.3% ○バス運賃 92.9% ○運転士マナー 90.9%	○一部未達成 運行ダイヤ及びバス ルートは前回の調査 結果を下回ったが、 運賃及び運転士マ ナーでは前年度を上 回っている。引き続 き満足度の向上に努 める。	バスが住民生活に定 着しつつある中、引 き続き、利用者の意 見をできる限り反映 し、満足度の向上を 図る。
利便性 (1年目50%以 上、2年目以降 60%以上) 外出機会が「増 加」及び「やや増 加」した住民の割 合をいう。	利用者意識調査にお けるバス利用頻度で は、週3・4回が増 加し、月単位での利 用者数も増加してい る。また、往復バス を利用する割合は 62.5%から76.2%と 増加している。	【利用者意識調査】 月単位の利用者が減 少し、週単位の利用 者数が増加。利用頻 度は、週5回利用者 が増加。また、往復 バスを利用する割合 は片道利用が増加し ている。 【住民アンケート】 バスを月1回以上利 用したことがある方 のうち、外出機会が 増加及びやや増加し た割合は、約50% で、半数以上におい て、また、月単位で の利用者数も増加し ている。	○未達成 利便性向上の増減比 較をする客観的数値 がないことから、未 達成とする。 利用者意識調査にお ける往復利用や利用 回数項目では、前 年度より増加してい るが、利便性の向上 に直結しているとは 言い難い。運行ダイ ヤの見直しなど、満 足度向上策の検討及 び実施に努める。	利便性及び満足度向 上策を持続的に実施 する。